

第7回 最上小国川流域環境保全協議会

平成22年10月5日13:30～
最上総合支庁5F講堂

第7回 最上小国川流域環境保全協議会

1. 第6回協議会における 指導事項と対応について

第6回 最上小国川流域環境保全協議会

概 要

開催日時 平成22年7月22日(木) 14:00～16:10

場 所 最上広域交流センター「ゆめりあ」会議室

- 議 事
1. 第5回協議会における指導事項と対応について
 2. 早春期の環境調査結果
 - 2-1. 猛禽類調査
 - 2-2. 付着藻類調査
 - 2-3. ヒメギフチョウ調査
 - 2-4. マグソクワガタ調査
 - 2-5. 融雪期・しろかき期濁水調査
 3. 動植物重要種の環境保全方法について
 4. ダム供用時の影響の検討について
 5. 今年度の環境調査予定について

第6回協議会指導事項と対応

分類	指導内容	対応
早春期の環境調査結果について (付着藻類調査結果等)	① 付着藻類調査結果についてデータが蓄積されている。データの過不足について確認し、得られたデータからどのように環境影響評価の検討を行うのか、とりまとめを行う段階ではないか。	今年度調査も含め、データのとりまとめ、環境影響評価の検討を行っていく。
	② 今後年間を通じて実施する調査結果も踏まえてとりまとめをしてほしい。特に水温との関係に着目するといいいのではないかな。	今年度調査も含め、H19～H22調査結果によりとりまとめる。その際、水温との関係に着目していく。
	③ 付着藻類調査、アユのはみあと調査及び濁りのシミュレーション結果について、最上小国川における影響評価に対応するよう整理しておく必要がある。	調査結果等について、最上小国川に対応した整理・とりまとめを行っていく。

第6回協議会指導事項と対応

分類	指導内容	対応
動植物重要種の 環境保全方法について	① サシバ(重要種)、クマタカ(陸域上位性)、ヤマセミ(河川域上位性)の各保全措置・配慮事項について、適切である。	環境保全方法に反映していく。
	② ヒメギフチョウは当該地域には生息していないといつてよい。もし今後確認された場合は、近隣の生息地に移植するのは有効である。	環境保全方法に反映していく。
	③ ワタナベカレハ、マグソクワガタについては、移植が適切な保全方法であるかは不明である。前例等を確認し、必要であれば対策を検討することによいのではないか。	保全措置の前例等について確認し、環境保全方法に反映していく。
	④ 配慮事項として、工事の対応が挙げられているが、具体的にはどういう対応を行うのか。	重要種の形態や特性、それらに対する留意事項を周知させる等の対応をとる予定であるが、詳細については工事着手時までには検討していく。

第6回協議会指導事項と対応

分類	指導内容	対応
ダム供用時の影響の検討について	① アユへの影響を検討する上で、餌をはむ瀬の条件(流速・摩擦速度)がわかると非常に有用である。自然河川におけるアユの忌避行動については研究事例がなく、専門家の意見を伺うほかない。	既往調査結果や検討結果より、瀬の条件について整理する。 また、最新知見を入手し、専門家のご意見を伺うなど、アユへの影響の検討を引き続き実施していく。
	② アドバイザーから借用した資料の濁りの濃度は、濁度なのか、SSなのかを確認すること。シミュレーション結果と比較するときにはSSで比較する必要がある。ただし、目安としての比較であることにも注意すること。	当該資料の濁りの濃度は「濁度」である。 今後、当該資料をシミュレーション結果と比較する際は、比較方法に注意して取り扱う。
その他	① 最近の豪雨や土砂災害など、想像以上のものが多い。最上小国川ダムは、このような最近の気候・災害等を考慮しているのか。特に放水口が土砂・礫や倒木で閉塞することはないのか。	ご指摘の点についても考慮したダム計画を今後も検討していく。